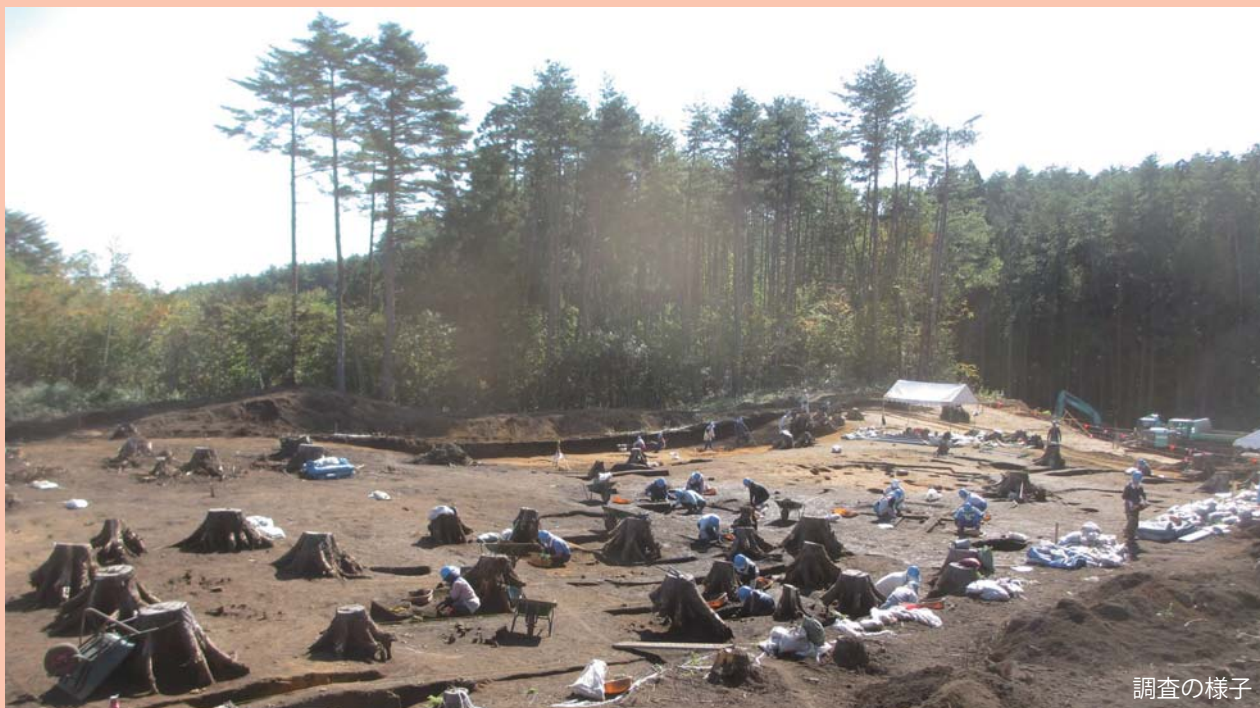


# おとべのに 乙部野Ⅱ遺跡

## 発掘調査現地説明会資料



### 【調査の概要】

所在地：岩手県宮古市田老字重津部 83 ほか  
事業名：三陸沿岸道路（宮古田老工区）建設事業  
委託者：国土交通省東北地方整備局  
三陸国道事務所  
調査期間：平成 27 年 8 月 3 日～ 11 月 30 日（予定）  
調査面積：3,800 m<sup>2</sup>  
担当者：松政里奈 北村忠昭 佐々木隆英 森裕樹

### はじめに

乙部野Ⅱ遺跡は宮古市の北東、田老地区に位置する、主に縄文時代後期（今から約 4,000 年前）の遺跡です。道の駅たろうから南東約 400m の地点にあります。遺跡の

標高は 126 ～ 139m で、西からのびる山稜の尾根部から南に向かう斜面に立地しています。

今回の発掘調査は、三陸沿岸道路宮古田老工区の建設事業に伴う緊急発掘調査です。



# 1. 見つかった遺構

乙部野Ⅱ遺跡では、現在のところ竪穴住居跡が31棟、竪穴状遺構が3棟、陥し穴状遺構6基、フラスコ状土坑8基、土坑13基、焼土遺構8基、不明遺構1基、捨て場1箇所が見つかっています。

竪穴住居跡のほとんどは縄文時代後期初頭（今から約4,000年前）のものであり、フラスコ状土坑や捨て場も同じ時期につくられたようです。



縄文時代後期初頭の竪穴住居跡

## 竪穴住居跡

今から約4,000年前の縄文時代後期初頭につくられたものが28棟とほとんどをしめます。掘りこまれた床面には火を燃やしたことで赤く焼けた焼土のある炉跡や柱の穴が残っています。古い炉の上に新しい炉がつくられているなど、短い時間に同じ場所へ再び住居をつくっていたことがわかりました。

その他に、縄文時代最後の晩期末から弥生時代初め頃（今から約2,300年前）にあたる竪穴住居跡もみつかっています。住居は焼失したのか炭化した木材や焼土で埋まっており、きれいな姿のままの土器が数点出てきました。

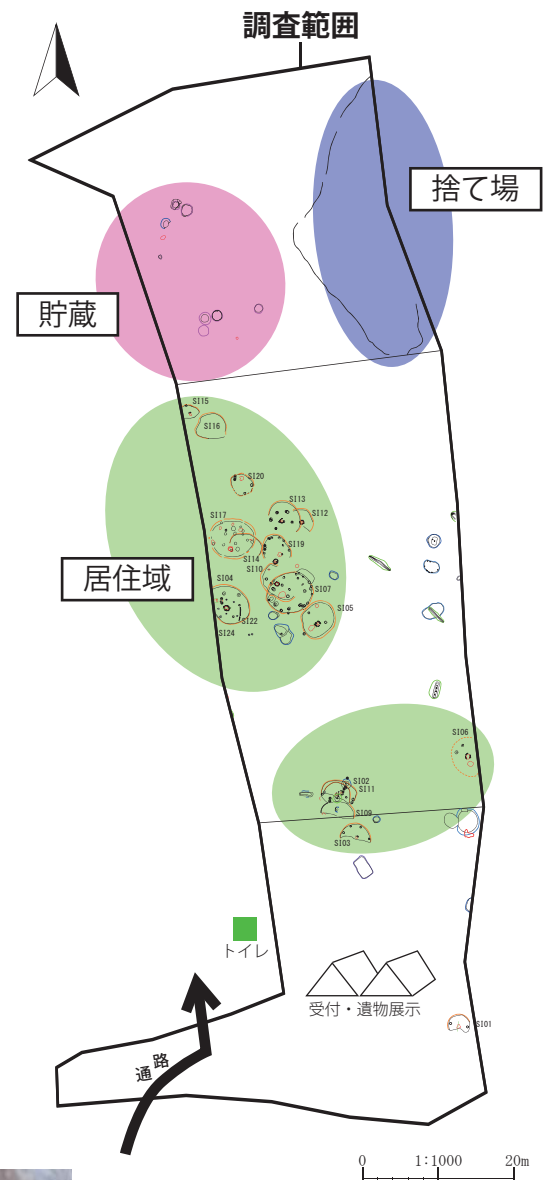


縄文時代晩期末～弥生時代初頭の竪穴住居跡



柱の穴の中からも出てきました。

## 乙部野Ⅱ遺跡 遺構配置図





捨て場の一部を掘り下げて堆積とその深さを確認しています。



陥し穴に堆積する土の断面を測って図面におこしています。

## フラスコ状土坑

フラスコのように入り口が狭く底が広がる形状をした土坑で、貯蔵施設と考えられています。乙部野Ⅱ遺跡のものはフラスコよりもバケツのような形もあり、底には湿気による水抜きのための穴が掘られているものもあります。

## 捨て場（遺物包含層）

縄文時代の土器が集中して入る、まとまった土の層を確認しました。後期初頭の土器が中心で、住居跡と同じころの包含層になります。壊れた土器や生活の中で出てきた土を捨てた場所と考えられます。

## 陥し穴状遺構

乙部野Ⅱ遺跡では形が溝状のものと円形で底に穴が1つ掘られたものの6基がみつかっています。溝状のものはさらに底に溝に平行する穴が数点並ぶものもあり、この穴は先をとがらせた木を逆さまに差し込んで、獲物を取りやすくした逆茂木（さかもぎ）の跡だと考えられています。

## 2. 出土した遺物

遺物は縄文土器が大コンテナ（約30×40×30cm）で43箱、石器が18箱出土しています。竪穴住居跡のほか遺構の外からも多く出土しており、主に縄文時代後期初頭のもので、つぎに多いのが縄文時代晩期末から弥生時代初頭のです。ほかに縄文時代前期前葉（今から約6,000～5,500年前）や縄文時代早期前葉（約9,000年前）の土器片も出土しています。石器は石鏃や石匙、磨製石斧などが出土しています。また、土偶や石剣、石に穴をあけた垂飾品といった土製品・石製品も見つかりました。



完全な形で出土した土器

## おわりに

今回の発掘調査で、今から約6,000～5,500年前の縄文時代前期から縄文時代晩期～弥生初頭の約2,300年前まで、断続的に狩り場や集落として使われていたことがわかりました。特に縄文時代後期には、貯蔵施設や捨て場といった場の使い分けがされていました。また居住域は、後期の初頭という比較的短い時間に古い竪穴住居の上に再び竪穴住居をつくるなど繰り返し同じ場所を利用していました。当時のこの場所が生活に適した場所であったことがうかがえます。

今後、調査で見つかった遺構や遺物を整理したうえで検討を重ね、さらにこの地域の当時の様相を明らかにしていきたいと考えています。

# 岩手県の遺跡略年表

年代	時期区分	遺物	主な事柄	主な調査遺跡	主な国・県指定遺跡	
BC10000年	旧石器時代		大型動物が生息する	遠野市宮守町金取遺跡 西和賀町峠山牧場Ⅰ遺跡 西和賀町大渡Ⅱ遺跡 久慈市早坂平遺跡		
8000年	縄文時代	石器・木器・骨角器	草創期	盛岡市大新町遺跡 軽米町馬場野Ⅱ遺跡 軽米町大日向Ⅱ遺跡		
4000年			早期	住田町蛇王洞穴遺跡 二戸市馬立Ⅰ遺跡	(県)大船渡市関谷洞窟 (国)遠野市綾織新田遺跡	
3000年			前期	大規模なムラができる	山田町沢田Ⅰ遺跡 普代村力持遺跡	(国)宮古市崎山貝塚 (国)奥州市大清水上遺跡
			中期	漆の本格的な利用が始まる	盛岡市上八木田Ⅰ遺跡 紫波町西田遺跡 九戸村田代遺跡 盛岡市湯沢遺跡	(国)一戸町御所野遺跡 (国)北上市権山遺跡 (国)盛岡市大館町遺跡
2000年			後期	土器	北上市柳上遺跡 盛岡市葺内遺跡 軽米町長倉Ⅰ遺跡	(国)大船渡市蛸ノ浦貝塚 (国)北上市八天遺跡 (県)滝沢市湯舟沢環状列石
1000年			晩期		亀ヶ岡文化が広がる	大船渡市上鷹生遺跡 北上市九年橋遺跡
300年	弥生時代	弥生土器	稲作が始まり、金属器が使用される	大船渡市上甲子遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢市湯舟沢遺跡 奥州市常盤広町遺跡	(国)大船渡市大洞貝塚	
AD300年	古墳時代	土器	卑弥呼が邪馬台国王となる	奥州市高山遺跡	(国)奥州市角塚古墳	
400年			大和朝廷が国家統一を進める 古墳が各地につくられる	奥州市中半入遺跡 北上市猫谷地遺跡	(県)矢巾町藤沢蝦夷森古墳 (国)北上市江釣子古墳群	
600年			仏教が伝わる 聖徳太子が摂政となる 大化改新がおこる	花巻市熊堂古墳 宮古市長根Ⅰ遺跡	(県)岩手町浮島古墳群 (県)山田町房の沢古墳群(出土品)	
800年	奈良時代	木器	奈良に都がつくられる	盛岡市台太郎遺跡 盛岡市芋田Ⅱ遺跡 盛岡市細谷地遺跡 宮古市島田Ⅱ遺跡	(県)野田村野田堅穴住居跡群 (国)奥州市胆沢城跡 (国)盛岡市志波城跡 (国)矢巾町徳丹城跡	
1000年	平安時代	須恵器・金器	京都に都がつくられる 胆沢城や志波城がつくられる 各地に荘園が広がる	軽米町皂角子久保Ⅵ遺跡 二戸市飛鳥台地Ⅰ遺跡 一関市川崎の柵擬定地	(県)北上市新平遺跡 (国)金ヶ崎町島海柵跡 (国)奥州市衣川区長者ヶ原廃寺跡 (国)平泉町柳之御所遺跡・平泉遺跡群 (国)一関市骨寺村荘園遺跡	
1200年	鎌倉時代	陶器	鎌倉幕府ができる	盛岡市繁Ⅲ遺跡		
1400年	室町時代	磁器	文永・弘安の役おこる 室町幕府ができる 応仁の乱おこる	花巻市笹間館跡 紫波町柳田館跡		
1600年	安土桃山時代	器	秀吉全国統一する	遠野市篠館跡	(国)二戸市九戸城跡 (国)盛岡市盛岡城跡 (国)北上市・金ヶ崎町南部領伊達領境塚	
1800年	江戸時代	器	江戸幕府ができる 鎖国が始まる	奥州市北館跡 紫波町栗田Ⅲ遺跡		
	近・現代		開国が行われる 明治維新	岩泉町江川鉄山跡 奥州市川岸場Ⅱ遺跡 住田町子飼沢遺跡	(県)軽米町玉川鉄山跡 (国)金石市橋野高炉跡 (県)住田町栗木鉄山跡	

乙部野Ⅱ遺跡

乙部野Ⅱ遺跡

乙部野Ⅱ遺跡